

# 人権教育推進計画

三重県立特別支援学校伊賀つばさ学園

## 1 現状と課題

### (1) 児童生徒に係わること

本校は知肢併置校で、児童・生徒144名が学校生活のあらゆる場面で人権を意識した学習に取り組んでいる。課題として児童生徒の実態に応じて、友だち同士のコミュニケーションや場に応じた気持ちの表現ができる力を育てると共に、集団の中で自分のできることを増やし、自ら進んで行動できる力を育てる必要があると考える。また、自尊感情を育て、自他ともに思いやり、命を大切にする気持ちを育てることも必要である。

そのためには、個々の発達段階に応じて具体的な行動に移せる仲間づくりを継続し、居住地校交流や学校間交流及び共同学習活動、地域の活動を通して、その輪を広げていく必要がある。

### (2) 学校・教職員に係わること

教職員は人権を尊重する意識を持ち教育に対する熱意が高く、あらゆる差別を許さないという意識が強い。一方で教職員の異動が多く、年齢層や経験の幅も大きい状況がある。その中で一人ひとりの人権意識をさらに向上させるため、さまざまな人権研修活動に参加できるよう進めるとともに、課題やニーズに合った研修を企画し、人権意識をより深化させ、学校生活や教育活動に活かすことができるように展開をしていかなければならない。

また、「HRC風」<sup>\*</sup>の活動については、差別を見抜き、解消への取組をすすめ反差別の仲間の輪を広げる活動として全教職員で支援していく。

### (3) 家庭・地域に係わること

多くの保護者は学校の教育活動に協力的で高い関心を持っており、PTA活動や学校行事、学習参観などに積極的に参加している。また、子どもの実態に即したきめ細かな指導、地域の中で生活していく力の育成などを学校に期待されている。人権教育での視点でさらに推進するため、あらゆる機会を通して地域・保護者・関係機関と連携や交流をさらに進めていくことが引き続き課題である。

※「HRC風」：以前は「伊賀地区人権を考える高校生友の会」略して「高友」と呼んでいた。6年前から「伊賀地区ヒューマンライツクラブ風」と名称を変えて活動している。親しみを込めて「風」（なぎ）と呼んでいる。高等部生徒(4月現在 2年生1名・3年生1名)が参加している。

## 2 学校教育目標

### (1) めざす学校像

「一人ひとりの個に応じた教育が行き届き、家庭・地域に信頼される学校」

- 人権尊重を柱に、自己実現が図られるよう、児童生徒一人ひとりの個に応じた教育を進めます。
- より質の高い教育を実践するために、教職員一人ひとりの資質向上を図ります。
- 保護者・保・幼・小・中・高等学校や関係機関と連携・協働して、地域の特別支援教育のセンター的役割を果たします。
- 職員間のチームワークを大切にして、達成感や充実感を共有できる職場環境を築きます。

(2) 中長期的な重点目標

- 児童生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた教育支援体制の確立
- 特別支援学校のセンター的役割を発揮できる学校づくり
- 地域に開かれた学校づくり
- 教職員が自ら学び、生き生きと仕事ができる学校づくり

### 3 人権教育カリキュラム

(1) 小学部

①めざす子ども像

「将来の社会参加に必要な基本的な生活習慣を身につける。」

②人権教育の目標（子どもにつけさせたい力）

- ア、自らすすんで「あいさつ」「返事」ができる力を育てる。
- イ、個々の実態に応じた、友だち同士のコミュニケーションの力を育てる。
- ウ、場に応じて自分の気持ちを表現できる力を育てる。

③教科・部等・その他校務分掌における取組

	取組内容	つきたい力		
		ア	イ	ウ
教科等	◎教科等全般 ・基本的な生活習慣を身につけることができるようにする。 ・気持ちのよいあいさつができるような朝の会・帰りの会での雰囲気作りをする。 ・グループの枠を超えて友だちと仲良くし、助け合えるようにする。 ・友だちとかかわる場面を多く設定し、友だち同士のコミュニケーションを見守る。 ・友だちや教職員と共に活動することを楽しむようにする。 ・考える力やコミュニケーション能力を育てる。 ・自分の思いを伝える力を育てる。 ・子どもが友だちの様子をもとに自己選択や自己決定ができる場面を設定する。 ○国語、算数、自立活動 ・活動（数・ことば）への興味と意欲をもたせ、持続（集中）する力を育てる。	○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○

④人権学習計画

	学習内容	つきたい力		
		ア	イ	ウ
一学期	・居住地校交流・学校間交流及び共同学習		○	

二 学 期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 修学旅行</li> <li>・ つばさ祭り</li> <li>・ 校外学習</li> <li>・ 居住地校交流・学校間交流及び共同学習</li> </ul>	○	○	○
三 学 期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 卒業生を送る会</li> <li>・ 居住地校交流</li> </ul>		○	○

(2) 中学部

①めざす子ども像

「基本的な生活習慣を身につけ、仲間を意識する力を高め、将来の社会参加をめざす。」

② 人権教育の目標（子どもにつけたい力）

ア、場面に応じた挨拶や返事、感謝の気持ちをすすんで表すことのできる力を育てる。

イ、集団の中で、自分でできることを増やし、貢献できる力を育てる。

ウ、仲間の存在を意識して、認め合い尊重できる気持ちを育てる。

③ 教科・部等・その他校務分掌における取組

	取組内容	つけたい力		
		ア	イ	ウ
教 科 等	◎教科等全般			
	・ 日常生活に必要な基本的習慣が身につくようようにする。	○	○	
	・ 集団生活への参加に必要な態度、ルールやマナーが身につくようようにする。	○	○	○
	・ 生活経験を重ねることで日常生活をより豊かにできるようにする。	○	○	○
	・ 見通しを持って積極的に活動しようとする力を養う。	○	○	
	・ 自らの課題を主体的に解決しようとする態度が身につくようようにする。		○	
	・ さまざまな活動を通して、仲間とともに達成感を共有し、互いに認めあえるようにする。		○	○
	○課題学習			
	・ 基礎学力を向上させ、日常生活に必要なスキルや態度を育てる。	○	○	
	○自立活動			
・ さまざまな場面で円滑なコミュニケーションができるような力を養う。	○	○	○	
○作業学習				
・ 自分の力で作業をやり遂げ、周囲の役に立つことへの喜びが感じられるようにする。	○	○		
○特別活動				
・ 多くの仲間とのかかわりを通して社会性を身につけるようにする。	○	○	○	

④人権学習計画

	学習内容	つきたい力		
		ア	イ	ウ
一学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新入生歓迎会</li> <li>・ スポレク集会</li> <li>・ 学部集会</li> <li>・ 居住地校交流</li> <li>・ 宿泊学習</li> <li>・ 校外学習</li> </ul>	○	○	○
二学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学部集会</li> <li>・ 居住地校交流・学校間交流及び共同学習</li> <li>・ 校外学習</li> <li>・ 宿泊学習</li> <li>・ 修学旅行</li> <li>・ つばさ祭り</li> </ul>	○	○	○
三学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学部集会</li> <li>・ 居住地校交流</li> <li>・ 卒業を祝う会</li> </ul>	○	○	○

(3) 高等部

①めざす子ども像

「個々の実態に応じて、コミュニケーション能力を高め、将来の社会参加に向けて実践する力を身につける。」

②人権教育目標（子どもにつけさせたい力）

- ア、挨拶や返事、感謝の気持ちなどを積極的に表現する力を育てる。
- イ、自分の思いや気持ちを適切に表現できる力を育てる。
- ウ、仲間と協力し、助け合う態度を育てる。
- エ、相手の気持ちや立場を理解し、自ら考えて行動できる力を育てる。

③教科・部等・その他校務分掌における取組

	取組内容	つきたい力			
		ア	イ	ウ	エ
教科等	<p>◎教科等全般</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ルールやきまりを守り、協調性と自律性を育てる。</li> <li>・ 自分の生活を見直し、社会に適応するための規則正しい生活リズムを身につける力を育てる。</li> <li>・ 自分の願いや目標を実現させるために、粘り強く努力しようとする心を育てる。</li> <li>・ 自分の決定したものに責任を持つ態度を育てる。</li> <li>・ 挨拶や感謝する気持ちを表現できる力を育てる。</li> <li>・ 互いに教え合い、協力し助け合える関係を作っていく。</li> <li>・ 状況に応じた、ていねいな言葉づかい適切な態度がとれる力を育てる。</li> <li>・ 思いやりの心を持ち、相手の立場に立って行動できる力を育てる。</li> </ul>	○	○	○	○
		○	○	○	○
		○	○	○	○
		○	○	○	○
		○	○	○	○
		○	○	○	○
		○	○	○	○
		○	○	○	○

○課題学習 ・社会的自立に必要な知識や理解を深め、今後の生活に生かす力を育てる。	○	○	○	○
○自立活動 ・コミュニケーション力を向上させ、よりよい人間関係を構築できるような力を養う。	○	○	○	○
○作業 ・自分の役割を理解し、仲間と協力する態度を育てる。 ・製品作りや販売、接客を通して、働く喜びを感じられるようにする。			○	○
○特別活動 ・集団での活動を通して社会性を身につける。	○	○	○	○

#### ④ 人権学習計画

	学習内容	つけたい力			
		ア	イ	ウ	エ
一学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新入生歓迎会</li> <li>・スポレク集会</li> <li>・学部集会</li> <li>・つばさのつどい</li> <li>・校外学習</li> <li>・学校間交流及び共同学習</li> <li>・宿泊学習</li> <li>・手づくり市</li> </ul>	○		○	
二学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学部集会</li> <li>・つばさのつどい</li> <li>・校外学習</li> <li>・宿泊学習</li> <li>・学校間交流及び共同学習</li> <li>・修学旅行</li> <li>・つばさ祭り</li> </ul>	○	○	○	○
三学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学部集会</li> <li>・つばさのつどい</li> <li>・校外学習</li> <li>・学校間交流及び共同学習</li> <li>・卒業生を送る会</li> </ul>	○	○	○	○

#### ⑤ 生徒の自主的活動

##### ○校内人権サークル 「つばさのつどい」

(目的)

- ・生徒同士のつながりを深めながら、校内での居場所づくりを行う。
- ・仲間とさまざまな活動を通して、お互いのことを理解する。
- ・経験や視野を広げ、HRC風への参加、活動につなげていく。

(活動内容)

- ・高等部の生徒を中心に毎水曜日(13:05~13:55)の自主的活動。自由参加。

- ・スピーチ(トーク)、ゲーム、資料を使っての人権学習、新聞づくり、人権劇など。

### ○HRC(ヒューマンライツクラブ)風

(目的)

- ・さまざまな活動を通して伊賀地区の県立学校や地域との連携を図り、相互理解を深めるとともに、生徒の経験および視野を広げ、社会性を培い、人間関係を豊かにする。
- ・伊賀地区に在住する高校生が集い、差別を見抜き、解消への取組を進めるため、反差別の仲間の輪を広げる。
- ・自分自身にできる行動を仲間とともに考え、差別解消への実践力を身につける。

(活動内容)

- ・高等部の生徒(希望者)が参加。木曜日の16:30~18:30 伊賀地区の県立学校を会場とし、主に部落差別、障がい者の人権、外国人の人権やいじめ問題など自分たちの身の回りにある問題について話し合う。
- ・定例の活動以外に、伊賀地区人権フェスティバル(年3回)や地区別人権学習活動交流会などにも参加する。

#### (4) 校務分掌における取組

##### ○進路指導部

- ・キャリア教育プログラムに沿った進路指導計画をもとに入学後からの継続的な進路指導を推進。

##### ○研修部

- ・『一人ひとりの「生きる力」を育む授業づくり』に沿った職員研修の計画、実施。
- ・児童生徒及び保護者のニーズに応えた交流及び共同学習の実施。

##### ○健康推進部

- ・「保健指導」「食に関する指導」により、健康に対する意識の変容を目指す。

##### ○総務部

- ・地域と学校、保護者との連携を深める。

## 4 教職員研修

### (1) 基本的な考え方

「差別の現実に深く学ぶとともに、自己を振り返り人権意識の向上につながる研修」

- ① 学校外部との連携を強化しつつ、現状認識を深めたり、当事者の声に学んだりする研修を進める。(出会いを重視した小グループの話し合い活動を進める。)
- ② フィールドワーク等の研修を企画し、すべての教職員が学習できる体制をつくる。

## (2) 教職員研修計画

- 校内研修 ・全体または小グループや学部単位による研修（年2～3回）
  - ・HRC風への参加
  - ・「人権・同和教育推進だより」の発行（随時）
  - ・講演研修会の実施
  
- 校外研修 ・フィールドワーク（伊賀地区）
  - ・三重県人権・同和教育研究大会への参加
  - ・各種研修会、学習会への参加 など

## 5 推進体制

### (1) 校内体制

#### ① 人権・同和教育推進委員会（定例・・・年7回）

『構成員』校長、教頭、研修部交流及び共同学習係代表、進路指導部代表、教育支援部代表、養護教諭、生徒指導部代表、人権・同和教育推進部（各学部代表）

#### 『目的』

- 人権教育を推進するための体制づくりを図り、校内での課題をあきらかにする。
- あらゆる教育活動が人権の学びの場となるよう情報共有、連携を図り、取組をすすめる。

#### ② 人権教育推進協議会（年2回）

『構成員』三重県教育委員会、名張市地域環境部人権・男女共同参画推進室、名張市教育委員会、伊賀市教育委員会、社会福祉法人名張育成会、美旗まちづくり協議会、名張市立美旗小学校、名張市立北中学校、本校PTA代表、校長、教頭、人権・同和教育推進部

#### 『目的』

- 本校の人権教育の取組を関係機関に発信する。
- 本校の現状と課題を明らかにする。
- 本校の人権教育に対する情報共有、意見交換をすすめ、取組を充実する。

### (2) 対外的な会議等

- ・特別支援学校人権教育連絡協議会
- ・伊賀地区高等学校等人権・同和教育推進委員会連絡協議会
- ・伊賀管内中学校区人権教育推進協議会（4中学校区）
- ・名張市、伊賀市人権・同和教育推進協議会

### (3) 学校間・校種間連携、保護者・地域との連携等

#### ① 学校間交流(H30年度)

- ・小学部・・・名張市立美旗小学校
- ・中学部・・・名張市立北中学校、
- ・高等部・・・伊賀白鳳高校、名張青峰高校

## ② 居住地校交流(H30年度)

### ・伊賀市

西柘植小学校、柘植小学校、友生小学校、壬生野小学校、久米小学校、上野東小学校、上野西小学校、新居小学校、青山中学校、緑が丘中学校、城東中学校、阿山中学校、大山田中学校 (小学校8校・中学校5校)

### ・名張市

梅が丘小学校、桔梗が丘小学校、桔梗が丘東小学校、百合ヶ丘小学校、桔梗が丘南小学校、つつじが丘小学校、すずらん台小学校、北中学校、名張中学校、名張南中学校、赤目中学校、桔梗が丘中学校 (小学校7校・中学校5校)

## ③ 特別支援学級交流

### ・名張市もみじのつどい

## ④ 「伊賀地区ヒューマンライツクラブ (HRC) 風」への参加

## ⑤ 地域の人々との交流

- ・小学部・・・お米作りを通して(田植え、稲刈り、おにぎり集会)  
作業所との交流(コスモス種まき)
- ・中学部・・・収穫体験学習、農作業体験実習  
授業(農作業)を通しての交流
- ・高等部・・・作業学習(作品の展示や販売)  
窯業班(伊賀焼体験)  
サービス班(近隣公共施設清掃)

## 6 その他

### ○学校全体の活動

- ・学校祭・・・・・・・・伊賀地区県立学校よりボランティアが参加交流

### ○PTA関係

- ・おもいっきりしゃべろうかい・・・保護者同士のつながり。保護者との話し合い
- ・わいわいサークル・・・・・・・・保護者同士のつながり
- ・PTA広報誌等での活動報告・発信
- ・同窓会・・・・・・・・ホームページを使つての各行事開催の案内